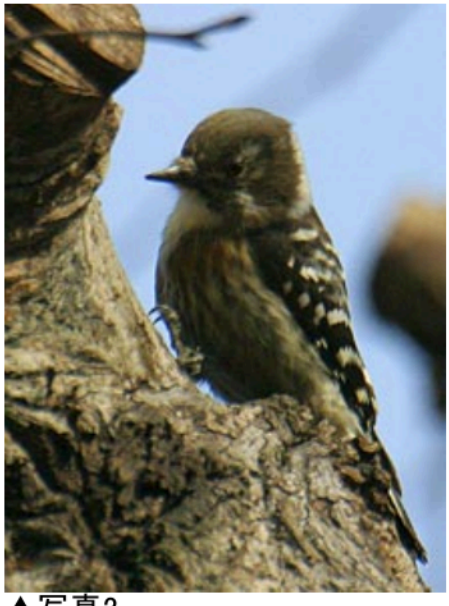
教職員情報

2004年2月

理学部附属 植物園のいきものたち 第10回

▲写真1



▲写真2

冬の植物園では虫を探すのは困難。落葉した林内は野鳥の観察に適している。ツグミなどの冬鳥が見られるほか、カラ類の混群が見られるのも冬の特徴である。カラ類とはシジュウカラ、ヤマガラ(写真1)、コガラ、ヒガラなどの小鳥を指す言葉である。カラ類の混群とは冬季にこれらの複数種の小鳥たちが入り混じった群れとなって採餌行動をする現象である。実際の混群にはカラ類とは分類学的に異なるエナガ、メジロ、コゲラ(写真2)なども混じることが多い。群れとなって一緒に行動しつつも種ごとに採餌場所が少しずつ異なっていて種間の競争があまり起こらない仕組みになっていることが知られている。

ここに載せた写真は2004年1月24日の観察会の時のものであるが、このときの混群にはシジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、コゲラが観察された。ヤマガラ(写真1)はスズメより一回り大きく、オレンジ色のおなかが特徴である。「ツツ・ジェージェー」という鳴き声も特徴的で、慣れれば声だけでそれと分かる。虫の少ない冬場は、秋のうちに貯食しておいたドングリ類を探し出して食べている姿を良く見かける。

コゲラ(写真2)は小型のキツツキであるが、冬季にはカラ類の混群に混じっていることが多い。アカゲラなどの大型のキツツキ類に比べて嘴は短く色も地味で見栄えのしないキツツキであるが、行動はキツツキそのもの。幹や枝に縦に止まり嘴でつついて餌を探す。時々けたたましいドラミングも行う。

(写真・解説　樋上正美)